

ポラトモ



vol.
37

特集

ヤマハ音楽教室
70周年！

歴史が
ミライを
創るんだね。

ヤマハ音楽教室幼児科
保護者向け情報誌

音楽やピアノの魅力を たくさんの人に伝えたい



入園前の準備として ヤマハ音楽教室に

ヤマハ音楽教室には3歳から4歳半まで通っていたそう。「母は音楽経験がありませんでしたが、幼稚園に入園する前に、何か集団生活に慣れる経験をと考えて、ヤマハを選んだようです。自宅から徒歩で行けるところに教室があり、同じ幼稚園に入園する近所の友達も一緒でした」と振り返ります。

その後は、年長から中学2年生まで個人レッスンのピアノ教

PRIMARY
FRIENDS
OB&OG
INTERVIEW

ヤマハ音楽教室
OB & OG インタビュー
もりやす
森保まどかさん
タレント

室に通うことになりました。

当時、幼稚園では、ピアノを習うのが流行っていて「隣の家のお母さんがインターネットで検索してくれて出てきた有名な先生のところに、往復1時間かけて通っていた」そう。

そのピアノ教室は超スパルタ志向の教室で、先生もとても厳しかったそうですが、「聴覚が一番発達する3歳から4歳の時期にヤマハのレッスンで音楽の基礎や、音感、リズム感などを身につけられていたので、何とか個人のレッスンにもついていけ

MESSAGE
FROM
PURATOMO

ヤマハ音楽教室の願い

グループレッスンをする理由

幼児科のレッスンは、グループレッスンで行われます。
それは、お友達と一緒に歌ったり弾いたりすることで、
テンポに対する感覚や、まわりの音を聴こうとすることなど、
さまざまな力が身につくからです。

また、みんなで練習し、「できた！」という達成感を
共有できるのも、グループレッスンだからこその魅力です。

さらに、グループレッスンでは、
自分と違った意見を受けとめたり、
自分の想いを周囲に伝えたりする経験を重ねていきます。

このような経験は、お互いの個性や創造性を
尊重することにもつながっていきます。

ぶらトモってなあに？

みなさん、こんにちは。『ぶらトモ』は幼児科のお母さんお父さんたちと身近になりたい、仲よくなりたいという想いで2014年に発行されました。『ぶらいまりー』のともだちだから略して『ぶらトモ』です。よろしくお願いします！

1997年生まれ、長崎県出身、タレント、ピアニスト。2011年HKT48の1期生オーディションに合格。2020年ソロピアノアルバム『私の中の私』発売。2021年6月にHKT48を卒業後は、ピアニスト、キーボーディスト、女優、ラジオパーソナリティ、イベントMCなど幅広く活躍。ヤマハ音楽教室の番組『奏デンジャー』シーズン3よりMCに。https://moriyasumadoka.boosty.app/



たんだと思います」。

お父様が内緒で応募した
HKTオーディション

年2回のコンクールを目指し練習の日々を送る生活に転機が訪れたのは中学校2年生の時。

中学校卒業後、音楽系の高校を目指すか、普通の公立高校に進学するか迷っていたそう。

「これまでずっとピアノに打ち込んできましたが、それを将来の生業にするほど、この世界が甘いものでないのは、コンクールの全国大会に出場するたびに痛感していました」。

そんなとき、お父様がHKT48というアイドルグループ結成のためのメンバー募集の案内を見つけ、まどかさんに内緒で応募します。

森保さん自身は「福岡に遊びに行ける！」ぐらいの軽い気持ち

なかったこともあり、記憶がないぐらい忙しかった」そう。

朝から1日中CMの撮影をして、夜は劇場で舞台に立つというこも。

そんな生活を10年間続けてこられたのは、「ファンの方やみなさんの声援があったから」。

最初は突然知らないファンの人から声をかけられることに戸惑いがあったそうですが、「センターやソロ曲の担当に選ばれることを目指す中で、ファンの方々が一番の自分の味方となつて無償の愛を注いでくださるのを感じ、信頼関係も築けて、とてもありがたい存在でした」と語ります。

ヤマハは音楽だけでなく
人間力を磨ける環境

小中学校時代は、「ピアノが大変でもうやめたい」という感情

ちで臨みますが、最終審査にも合格し、1期生のメンバーに選ばれます。

「コンクールで鍛えられていたので、オーディションで特別緊張することはありませんでした」と語ります。

アイドルへの道が開かれ、結果的には家族で福岡に移り住むことになり、通信制の高校にも進学。もともと母体のAKBは「普通の女の子が頑張るのを応援する」がコンセプト。

「デビュー前には、たくさんさんの楽曲と振り付けを覚えなないといけないので、メンバーとヒーヒー言いながらも、お互いに教え合ったり。それが学校生活みたいで、とても楽しかった」と話します。

HKT48時代は、毎日劇場で公演があり、「1期生だったので交代してもらえるメンバーがい

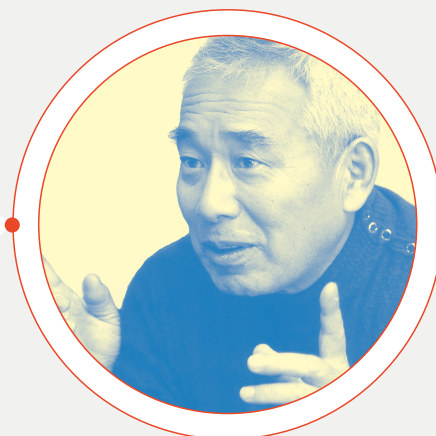
もあつたそうですが、アイドルになって、自分の中で一番大切なものは音楽だったと再確認できたそう。

「ここ数年は音楽やピアノの魅力を、ファンの方やファンのお子さんに直接伝えたい、という明確な夢ができました」とも言います。

森保さんが番組ナビゲーターを担当する『奏デンジャー』でも、「子どもたちが本当に天真爛漫に音楽に触れる姿を見て、楽しい思い出を作る手助けが出来たらいいなと思っています」と話します。

「ヤマハ音楽教室には、コミュニケーションや人間として根本的に大事な部分を小さいうちから磨ける環境があります。音楽を学ぶ入口がヤマハだったことは、本当に良かったと思っています」。

ヤマハ音楽教室



GENICHI KAWAKAMI

川上源一

現在、世界40以上の国と地域で展開しているヤマハ音楽教室。今から70年前、当時のヤマハ株式会社の川上源一社長が、「音楽教育において重要な幼児期に、音楽を楽しみながら教えていくことができるはずだ」と考え、世界のどこにもなかった新しい方法で音楽を教える教室をつくりました。

1954年にヤマハが音楽教室をスタートしてから今年で70年。ここまで、ヤマハ音楽教室がどのような変化を遂げてきたのかを振り返ります！



1950年代のレッスンの様子。



今とおんなじだね



幼稚園などを会場にすることも多かったそう。



グループレッスンはこの頃から。

1950年代

1954年、前身となる教室が銀座にでき、その後「ヤマハオルガン教室」として、全国各地にひろがっていきました。



1950～60年代にレッスンで使用されたテキスト。

YAMAHA
CHRONICLE

1960年代

1959年に「ヤマハオルガン教室」が「ヤマハ音楽教室」という名前に変更。1969年には「幼児科」が誕生しました。



なつかしい

●とにかく先生が素敵でした。キラキラして可愛くてカルチャーショックを受けた記憶が。先生に憧れて、その頃から私もヤマハの先生になりたいと思っていました。

●弾きたい曲があっても楽譜がなかった時代。自分で和音をつけて耳コピしてました。

●4、5歳の時から本格的な教室で音楽を習っていたという、豊かでキラキラした思い出は、今でも色あせないです。

●会場の幼稚園のほとんどの園児が通っていました。テキストの曲があまりに良いので嬉しくて、父親の大きなスピーカーから大音量で再生してもらい、窓を開けて道ゆく人に聴かせていました。

スタッフや先生に聞きました！

「ヤマハオルガン教室」通った思い出



●一人一台、オルガンの前に座れる事、先生が一人ずつシールを貼ってくれた事、小物の楽器を持って楽しく歌った事、レッスン帰りに母と大きな声で習った歌を歌いながら帰った事などを覚えてます。

●発表会で初めて触ったエレクトーン。風が出て音が鳴り出したのを覚えています。

●楽しかった思い出しかないです。レッスンを休んだ時に、先生からいただいたハガキは今でも持っています。

●オルガン教室が音楽との出会いの第一歩。習った歌弾いた曲の楽しさがその後のピアノに引き継がれ、ヤマハの講師になるという事につながっていると思います。

●講堂にオルガンが横に10台、縦に3列並んでいて生徒は30人！「ことりがね」おまじでね」の歌で毎回始まっていました。オルガンの横に立ってドミソ・シファソと全員で早当てしていました。



作曲家
村松崇継
さん



これほど様々な音楽にふれることができ、未来の選択肢が広がる習いごとは他にはないと思います。幼児科は、その子の持つ可能性を見つけてあげるにはよい環境ではないでしょうか。自分自身は、ヤマハ時代に自分の道を見つけることができ、それを職業にできて本当に幸せです。



FROM
OBOG
書道家
武田双雲さん

書道ってリズム感がすごく大事。音楽と一緒に、軽やかで流れるようなリズムで書くと上手くいく。母親は「書道家になれたのは、ヤマハに行っていたからよ」と。いい感情はいいリズムを生むから、そのために音楽を聴いたり楽器を弾いたりして心のチューニングができる。



1990年代

テキストとともに製作されるメディア教材も変化していきました。90年代には、映像教材の使用もスタート。



90年代の「ぶらいまりー」。

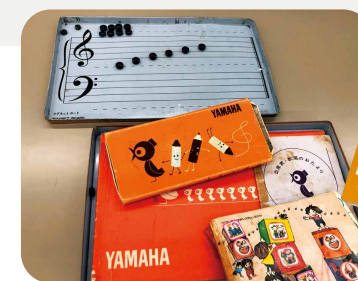
海外にもヤマハ音楽教室がどんどん広がっていき、第1回アジア・オセアニアJOC*がシンガポールで開催。



80年代の「ぶらいまりー」。

1980年代

幼児科のレッスン内容は、よりよいものへと、進化してきました。80年代になると、感性・創造性をより重視した内容に。CD教材も誕生しました。



70年代に幼児科で使われていたテキストや教材。

1970年代

テキストも時代に合わせて変化していき、1973年、幼児科テキストの名称が『ぶらいまりー』に。



レコードが教材に。



この時代のテキストは「せこんだりー」と「ぶらいまりー」の2種類。



ジャズやフュージョンの世界を教えてくれたのはヤマハの先生方。先生は、かなり私には手を焼いたと思いますが、ずっと同じ目線で付き合ってくださったことに感謝。音楽はリズムも重要な要素。個人レッスンでは、よく先生と踊っていたのを今でもよく覚えています。

ジャズピアニスト
桑原あい
さん



音楽医科学という、スポーツ科学の音楽版ともいえる、新しい分野の研究をしています。ヤマハに行っていなかったら、この分野も生まれていないかも。自分が親になってわかりましたが、幼児科時代、つきっきりでサポートしてくれた母には感謝です。



FROM
OBOG
音楽医科学研究者
古屋 晋一さん

小学生の時からジュニアオリジナルコンサート(JOC)の海外公演を何度も経験。音楽は国境を越えることを実感しました。「どうしたらうちの子は練習しますか？」とよく聞かれますが、その子が音楽の何が好きなのかを見つけることが大切だと思います。

作曲家・ピアニスト
上原ひろみ
さん



譜面がなくても自由に音楽を奏でられる子になってほしい、という母の想いから、ヤマハ音楽教室に通うことになりました。子どもの頃は勉強も運動も苦手、生きづらさを感じていましたが、ヤマハのレッスンで唯一作曲をほめていただき、今があります。



FROM
OBOG
プロサーファー
中塩佳那さん



歌が好きになれたのは、小さい頃からヤマハ音楽教室での体験があったから。ヤマハで身についた音感が、今でも大きく役立っていると思います。幼児期という、人生の中のとても大事な時間を音楽と過ごしたことは貴重な体験でした。

ヤマハもサーフィンも4歳から。レッスンは、サーフィン中心の生活での気分転換になっていました。中学に入ってから自分好きな曲が弾けるようになってどんどん楽しくなって、グレードは6級まで取得。音楽で得たリズム感がサーフィンにすごく役立っています。

歌手・俳優
木原瑠生さん

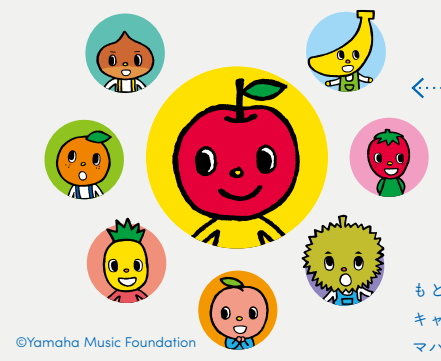


2024年5月、ヤマハの音楽レッスンのブランドが1つに統合され、「ヤマハ音楽教室」は「YAMAHA MUSIC SCHOOL」へと名称が変わります。



MESSAGE FROM YAMAHA

楽器を奏でることや、楽譜が読めることだけが音楽の力ではありません。ヤマハで学ぶ子どもたちは、どんなかたちでも、心から音楽を楽しめるようになります。音楽を楽しむ、音楽で表現し、音楽でつながる力は、人生の大きな財産となるはず。そんな力を子どもたちにプレゼントしたいという願いは、これまでの70年間、そしてこの先もかわることがありません。



©Yamaha Music Foundation

ぶっぶると
おともだち

もともとは「赤りんごコース」のキャラクターでしたが、現在はヤマハ音楽教室のキャラクターに。



らっきー

2000年代



幼児科のレッスンの様子。



頑張っているね



現在幼児科で使用されている『ぶらいまーりー』。

2000年代

時代の変化に合わせて、
2020年頃から、
家庭学習をサポートする
動画配信やアプリもスタート。



アプリ「オンブモン」や、動画の配信などで家庭学習をサポート。



こちらから幼児科のテキストの歴史を知ることができます。

親子2代で講師に！

講師歴30年超えの裕加里さんと、5年目の沙希さん。小さい頃から楽しくいうにレッスンに向かう母の姿を見ていたのもあり、自身も音楽の道へ。「就職するときにいろいろ選択肢はあったのですが、自然にこうなった感じがです(笑)」「(沙希さん)」。二人とも同じ楽器店に所属しており、自宅でも会話の中心は音楽の話。「子どもたちの純粋さはいつの時代も変わらないもの。共有・共感できる喜びを味わえるグループレッスンのよさを伝えていけたら」(裕加里さん)。



愛知県 オリエント楽器
大塚 裕加里さん
沙希さん



現役在籍生の声！

お母さまがヤマハ出身だったのもあり、らっきークラスからヤマハへ。今はジュニア専門コースに通っていて、ヤマハ音楽教室のCMにも出演中の美蓮さん。幼児科時代の思い出は「レッスンで先生やお友達に会えたり、曲がどんどん弾けるようになるのが楽しかった」とのこと。レッスン中、あまりにも楽しそうだったため、舞台などのレッスンにも通うようになり、現在は子役としても活躍しています。将来の夢は「女優さんやミュージカル俳優」。



東京都
井澤美蓮さん(小1)
花佳さん

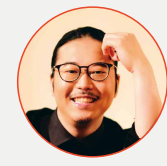
好きですヤマハ。みんなの今！

たまたまヤマハ音楽教室のチラシがポストに入っていて通うことに。2歳でバイオリンを習った時は「才能がない」と言われすぐにやめてしまいましたが、ヤマハでは、ほめられた記憶が残っていて、この楽しかった経験が、その後の音楽人生につながったと思います。



FROM
OBOG
ミュージシャン
「ヤバイTシャツ屋さん」ドラム
もりもりもとさん

ピアニスト
反田 恭平さん



音楽が大好きなので、今、こうして作品を発表したり、演奏する機会がたくさんあるのは本当に幸せなことです。僕は練習嫌いでしたが、純粋に音楽を楽しめる環境を幼少期に与えてもらえたことが、今の自分の形成に大きく影響しています。



SCORE

"チューリップ"

作詞：近藤宮子
作曲：井上武士
編曲：清澤久恵

Andante

メロディー

mp

さ い た さ い た チューリップ の は な が

伴奏

mp

な ら ん だ な ら ん だ あ か し ろ き い ろ

ど の は な み て も き れ い だ な

JASRAC 出 2400234-401

How To Play
こうやって
遊ぼう！

雑誌や企業のパンフレットなどで、幅広く活躍している青山京子さんによる作品です。チューリップが咲いているところを想像しながら歌ったり弾いたりしてみましょう。

参考音源は
こちら



THE WORLD OF
CHILDREN'S SONGS

"チューリップ"

ILLUSTRATED BY
KYOKO
AOYAMA



ONPYU STORY
おんぴゅだよ
作：やばい



作：やばい
主婦。10歳の男の子のママ。漫画『おしゅしだよ』(KADOKAWA)が話題に。

Q. 楽譜にドレミを書かない方がいいですか？
(千葉県 かつちゃんさん)

A. 書かなくても、無理なく自然に読めるよう、少しずつドレミと楽譜を結びつけていきます。

幼児科では、音楽を聴いて、歌って、弾いて、頭の中にその音

Q&A
ABOUT
YAMAHA
ヤマハ音楽教室
にまつわる
そぼくな疑問

Q. 和音を学んだり、歌うのは、何のためですか？
(兵庫県 momさん)

A. 将来ハーモニ（和音）を使って、音楽を楽しんでほしいからです。

今後、簡単なメロディーにハーモニ（和音）や伴奏をつけたり、自分なりにアレンジして幅広く音楽を楽しめるようになるためです。

今はハーモニの響きを確認し、基礎の力をつけることが大切です。

楽のイメージが出来てから楽譜を指で追うことで、少しずつドレミと音符を結びつけていきます。

まずは感覚的にドレミをイメージ出来るようにするためにも、楽譜にドレミは書かなくてよいと考えています。

PURPLE CORNER
ぷっぷるクイズ



©Yamaha Music Foundation

やって
みよう！

PURATOMO SQUARE
ぷらトモひろば



「ぷらトモひろば」では、全国の生徒のみんなや、お母さん・お父さんたちからのすてきな便りを紹介したりヤマハ音楽教室にまつわる素朴な疑問に一生懸命答えたりするよ。もっとわたしたちのことを知ってほしいから。

『つむじかぜのワルツ』の感想を先生に求められ、「秋と冬の間の曲」と答えていて、曲のイメージも自分の頭の中で思い浮かべられるようになったんだあと成長を感じました。(山形県 なちさん)

音楽を聴くと季節が浮かぶね

毎回いろいろなゲストの方のインタビューが面白いです。全く音楽とはかけ離れた世界で活躍されている方にもヤマハ出身者が多く、本当に全国的に身近な習い事の一つなんだと実感します。子どもも同じヤマハ出身者だと親近感がわくようです。(千葉県 はる母さん)

ジャンルをこえて羽ばたこう

長男が幼児科2年目なので、しばらく『ぷらトモ』ともお別れです。現在小学生の長女の時から楽しみに読んでいたので、さみしくなり

ます。今はまだ小さな次男がヤマハの扉をたたくとき、また『ぷらトモ』に出会えたらと思います。(宮崎県 くつきーさん)

ありがとう、また会おうね

兄が、両手奏が始まったばかりの妹の練習を手伝い伴奏してくれます。二人で楽しそうにピアノに向かってる姿はほほえましいです。(大阪府 りりいさん)

お兄ちゃんはやさしい先生

通い始めた一年目は、毎回イヤシながら通っていましたが、二年目からはレッスンが終わると「あー！楽しかった！」と言って帰ってきます。(埼玉県 まことんさん)

どんどん楽しくなってきました！

ヤマハ音楽教室では、お友だち・ごきょうだいの紹介キャンペーンを実施しています。

ご紹介いただいたお友だち・ごきょうだいが入会すると、いまなら「フォトスタンドファイル」をプレゼント！詳細については、お通いの会場までお問合せください。

※会場により実施していない場合もございます。またキャンペーンの詳細が異なる場合がありますので、ご了承ください。



INFORMATION

最新情報



HUMOROUS POEM

おもしろヤマハ川柳

*

テーマ

「子育てあるある」



きんようび
スキップキップで
レッスンへ

滋賀県
はればれさん

教室に
可愛い服で
行きたいの

岐阜県
青山千春さん

いつの間に
家に溶け込む
ピアノの音

島根県
あらたママ

編集後記 今年は冬があたたかいので、春がそれほど
楽しみじゃない今日この頃です。(アートディレクター
寄藤文平)／今さらながら最近、アメリカ？世界？で大
人気の歌姫に注目中。政治にも影響力がある彼女、曲はシ
ンプルなのが人気の理由かしら…。(編集&ライター 長
谷川華)／ヤマハ音楽教室出身者が多い職場なので、特集
ページにはスタッフ私物の過去教材なども登場していま
す。また現役講師の皆さまからは、オルガン教室の思い出
エピソードをたくさんお寄せいただきました。ありがと
うございました！(ヤマハ音楽振興会ぶらトモ編集部C)

ぶらトモ vol.37 2024 春 令和6年4月1日発行 通算37号

イラスト：米村知倫(特集部分)

撮影：森安照(森保まどかさんインタビュー部分)

ヘアメイク：永田壮一(森保まどかさんインタビュー部分)

アートディレクション：寄藤文平

デザイン：三浦裕一朗(文々研)

周佐直彰(Mo-Green Co.,Ltd.)

垣内晴(文平銀座)

企画・編集協力：門前貴裕(株式会社アンテポルタ)

下関崇子

長谷川華(はなばんち)

印刷：共同印刷マーケティングソリューションズ株式会社

発行所：一般財団法人ヤマハ音楽振興会

〒153-8666 東京都目黒区下目黒3-24-22

☎0570-075-808

発行人：串田厚司

WANTED

『アンケート&お便り』募集！

『ぶらトモvol.37』の記事について、みなさんのご感想、ご
意見を募集中です。『ぶらトモ』と一緒に作ってくれる「ぶ
らトモ隊」への応募もこちらから！

1. ヤマハ音楽教室や子育てに関するエピソード
2. ヤマハ音楽教室にまつわるそばくな疑問
3. 子育てあるある川柳 を募集しています。

応募は以下のアドレスかQRコードから。

<https://jp.research.net/r/KBFPBST>

(応募は2024年5月末日まで)



抽選で1名様に
森保まどかさんの
直筆サインを
プレゼント！



大判ハンカチを
全員に
プレゼント！



抽選で10名様に
ぶっふる
ドリンクホルダー
をプレゼント！



【個人情報について】いただいたお名前、ご住所、ご連絡
先などは、誌面掲載のご連絡やプレゼントのお届けに必要な
情報の確認に使用し、その他の目的では使用いたしません。